

中国研修を終えて

L144044 谷口竜平

今回の中国研修は、私の初の海外渡航であった。私はこの研修に参加しないかと紹介された当初は、正直行きたくなかった。中国は治安が悪いイメージや反日のイメージが強く、また衛生面がよろしくないという噂を聞いていたので、警戒していたのである。だが、今回の研修の引率担当の一人が、私のゼミの担当教員の藤本先生であったことや、ゼミ仲間が行く決心をしていたこともあり、「まあ大学生のうちには一回ぐらいは海外行っとくか」と腹をくくり、課題・面接をクリアし、晴れて？中国行きが決定したのである。

飛行機が北京国際空港に着陸する際、機内の窓から見える景色を見て驚いた。真昼であるのにも関わらず、朝靄や霧のようなものがかかっている視界が霞んでいるのだ。一瞬「何事?!」と思ったが、これが中国の大気汚染によるものと分かり、入国早々中国らしさに遭遇したのである。

中国研修2日目は中国人民大学の学生とのプレゼン大会であった。人民大学の学生の発表は、発表の姿勢や話し方から本格的で、スライドは見やすく整理されており、独自でアンケートをとって集計を行ったりと、島根大学の発表とは規模が違うなという印象を受けた。さすが、中国トップレベルの大学であるなど改めて思い、格の違いを感じた。また通訳担当の立命館大学のニキ先生の翻訳能力には驚きであった。前日の夜に少し打ち合わせをただけで、発表本番に私たちが話す内容をすぐさまに翻訳していく姿には圧倒された。

3日目は中国の農村へ調査に向かったが、まさかの村に入るために入場料がいることに驚いた。金をとれる機会があればとことん金をとる、中国らしい。だが入場料をとっているにも関わらず、村が観光客であふれている光景は、新たな農村の可能性が見えた気がした。さて、まったく農村調査とは関係ないのだが、実は密かに楽しみにしていたことがあった。それは、本物の「ニーハオトイレ」(壁などで仕切られていないトイレ)を見てみたいという野望だ。しかし、この農村は観光地化されているため、普通のトイレであった。無念。

4日目は1日観光であり、私が一番楽しみにしていた万里の長城に行くことができた。前日に万里の長城へは人が多くて行けないかもしれないと言われ、非常に悲しんでいたが、先生方や中国の学生さんが上手く日程を調整してくださったおかげで登ることができた。本物の万里の長城を目前にしてテンションが上がり、先頭集団の仲間たちと息を切らしながら登った。(このせいで帰国後苦しむことになるなんて、この時は微塵も思っていなかった...)登ってみて改めて思ったが万里の長城の長さは果てしない。これを昔の中国の人々が築き上げたと考えると、恐ろしい建造物だ。午後の買い物では前日の夜の宴会で振舞われた白酒と同じものを求め、人民大学の学生さんをお願いして、少し離れたスーパーまで連れて行ってもらった。めちゃくちゃな英語を何とか理解してもらって、無事に買うことができた。人民大学の学生さんは優しく、本当に感謝の気持ちでいっぱいである。

今回中国研修に行って、様々な異文化体験ができ、少しだけ視野が広がったなと思えるようになった。やはり言葉の壁は大きいと思えたし、言葉が通じることの安心感を理解することができた。そのため、帰国の際、英語をしっかり勉強しようと心に誓った。(まだ実行に移せていない...)

最初は行きたくなかった中国であったが、実際行ってみたら、物価は安いし、料理もおいしく食べられ、腹痛で苦しむこともなく、快適に過ごせたので、実際に何事も自分自身で体験してみないとわからないなと感じた。最終的に中国研修に行けてよかったなと思えたので、今回の研修は有意義なものであったと思う。人民大学の皆さん、引率の先生方、一緒に中国へ行った島大の皆さんありがとうございました。

余談だが、私は帰国後5日ほど声が出せない状態だった。後日知ったのだが、万里の長城に登った日は大気汚染濃度がとても高い日であったとのことだ。そんな日に無防備な状態で息を切らしながら登れば…。実際のところ、これの影響かはわからないが、中国で大気汚染がひどい日に、ハードなことをする際はマスク着用をおすすめします！！

